



発行 真宗大谷派 高山教務所
発行者 出雲路 善公
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
\*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

念じられ
照らされて

この前の震災

田村晃徳



〈略歴〉
一九七一年茨城県日立市生まれ。
東京教区茨城二組専照寺副住職。
田尻徳風保育園園長。親鸞仏教センター嘱託研究員。

皆さんにとって「この前の震災」とは何を指しますか。

実は答えは人それぞれです。中には明治時代の濃尾大震災を思う方もいるかもしれません。

私には二つあります。

「阪神淡路大震災」と「東日本大震災」です。

前者は学生時代に住んでいた京都で、後者は地元茨城に戻ってから経験しました。それぞれに大きな意味がありました。「阪神淡路大震災」では、関西と関東で報道の熱量に大きな違いがあることが驚きでした。つまり、震災が起きたことは同じでも、それをどのように経験したかによって感覚が変わるのです。考えてみれば当たり前のことです。ですが、私はこの震災か

ら文字通り「震度の違い」とも呼べるもの、つまり出来事からどれほど距離が離れているかによって、「震え方」が全く異なることを学んだのです。「東日本大震災」も大きな経験です。何よりも初めて自分を「被災者」として意識した出来事でしたから。ライフラインという言葉が象徴しているように、私たちの日常生活は一本の線により成り立っている、実に脆いものであることを痛感しました。あの震災については何度か書いてきましたが、その度に主題が変わります。それはまだ私がああ震災を整理できていない、いわば「余震」がなりやまない現在進行形の状態だからでしょう。この両者からの経験、つ

まり「震度の違い」と「なりやまない余震」は私の人間観に影響を与えました。人は当事者にならない限り、物事を真剣に考えることは難しい。そして当事者となってもその「震度」や「余震」の長さは異なるのです。私は僧侶として年忌法要や葬儀などを行います。この時にも震災での経験が生まれました。それは「お別れ」という事実は同じでも、そこに流れる感情は様々ではないこと、悲しいでしょう。しかし、同じ悲しさは一つとしてないのです。先の言葉を使えば、そのお別れがどれほど自分に近く感じられるかによって悲しみの震度は変わります。お参りの度に特別な気持ち

ちが起こるならば、それはいまだ余震がなりやまないからでしょう。お別れやお参りを通じて、その方との出会いの質が見えるのかも知れません。実は仏教と地震は大きな関係があります。経典によると、お釈迦さまの人生では何度か大きな地震があったようです。亡くなった時もそうでした。お別れにより地震が起きた。これは象徴でしょう。別れとは地震が起きたように足元が震え、座り込んでしまうこともあるのです。しかし、震災後も人生は続きます。ゆつくりとではあっても、再び歩き出さねばなりません。それは同時に震災前の自分には戻れない、つまり別れの経験を内に含んだ自分となったことを意味します。しかし被災を通じて防災に真剣になるように、別れという地震を通じて人生に真摯になることがあるかもしれません。それは一少し奇異な表現ですが、人生の当事者として歩み始めた自分です。地震、お別れ、仏教、人生：この一見関わりがないように見える言葉が連関を持って理解される時に、「この前の震災」は悲しくも大切な一つのご縁であったことを知るのです。

別院定例法座
午後1時から
3月28日 親鸞聖人ご命日法座
講題「聞法道場 実践道場」
講師 澤邊 恵亮 氏(誓願寺)
4月3日 三日のご坊
講題「真宗に生きる」
講師 鍋山 雅實 氏(寶圓寺)

新型コロナウイルスに伴う行事実施について
現在、世界的なコロナウイルス感染拡大の状況を受けて、さまざまな行事が開催を自粛、あるいは参加の制限をしています。それに関連して、高山教区・高山別院では3月~4月の法要行事について次の通り対応させていただいておりますのでご了承ください。
<中止>
【聖教学習会(第2回)】(3/12)
<延期>
【高山一組 親鸞教室】(3/7~5/2 全5回)
【親鸞聖人誕生850年・立教開宗800年慶讃講演会】(3/13)
<予定通り実施>
【高山別院 春の彼岸会・永代経法要】(3/17~3/23)
【高山別院 連如忌法要】(3/25)
【大谷婦人会 追弔会・総会】(4/11)
【高山二組 若声会公開学習会】(4/22)
【別院定例法座】(3日・11日・28日)
※なおお縮ですが、お参りの際は、マスク着用などの予防対策をお願いいたします。

おしなま
くもんざら
問 念仏するのにも作法ってあるの?
答 お参りするときには必ず合掌してお念仏申しますが、真宗大谷派にはお念仏の作法があります。それは大雑把に言う①姿勢を正してご本尊を仰ぎ見る。②合掌してお念仏する。③合掌を解いて一礼をする。というものです。特に注意したいのは②の合掌してお念仏するとき、皆さんは合掌しているとき、どこに顔を向けていますか?目を閉じて下を向いていないでしょうか?何かを祈る気持ちから自然と頭が下がってそうなる勢いかもしれません、合掌の姿勢としてはそうではないといわせていただきます。お念仏は「お祈り」

ではないのです。頭を下げてお念仏するのではなく、仏さまのお顔を仰ぎ見ながらお念仏するのが正しい合掌の姿勢です。「経教はこれを諭うるに鏡のごとし」という善導大師のお言葉があります。経教とは仏法、仏さまのことです。鏡とはこの私の姿をありのままに写し出すものです。そして、阿弥陀如来は「この私」を照らし出す光明だと示されます。つまり、仏さまを鏡としてありのままの自分自身と向き合う。そうして自分の生き方あり方を顧みて、身の事実を知らされ、自分にかけてられているご恩や有り難さに気づかされる。そういうことはたつきに遇わせていただくということが、合掌念仏するということなのです。自分の顔を見るには下を向かず鏡の方を見なければなりません。それと同じように、合掌してお念仏するとき、仏さまのお顔を見ながら南無阿弥陀仏と称えるのです。

4.3 TAISHI
日本の誇り、和の精神を世界へ
- 書家による書道パフォーマンス・篠笛奉納演奏 -
日時 4月3日(金) 14:15~15:30
会場 高山別院 本堂
参加費 無料
主催 和プロジェクトTAISHI/後援 高山別院

☎テレビホン電話(0577)(34)2313 ☎3月21日~31日:江馬輝準氏「光雲寺」 ☎4月1日~10日:鳥井伸介氏「敬勝寺」 ☎4月11日~20日:一本木国昭氏「西教寺門徒」 宗教トラブル相談窓口(0577)3210763

家族で話そう

仏教×グリーンケア⑦

尾角 光美

コロナと喪失と希望

現在、日本はもろろんのこと世界中が新型コロナウイルスの影響で大きくゆれています。たくさん

ちろんですが、目に見えないものへの恐れから、「安心」「安全」や「日常」が奪われています。卒業式がなくなれば、「さようなら」という「機会」も失う。経済的影響も大きく、すでに立ち行かなくな

ら、ウイルスの影響で、遊び場や学ぶ場を失った子どもたちに、安心して遊べる場所と、静かに勉強できる場を提供することに決めたそうです。感染予防のためのガイドラインも、丁寧に作り込まれていて、大人も子どもも安心して、お寺を頼れるようにしている姿が見えました。「これを使つてね」と優しく、あたたかな気持ち

ら、ウイルスの影響で、遊び場や学ぶ場を失った子どもたちに、安心して遊べる場所と、静かに勉強できる場を提供することに決めたそうです。感染予防のためのガイドラインも、丁寧に作り込まれていて、大人も子どもも安心して、お寺を頼れるようにしている姿が見えました。「これを使つてね」と優しく、あたたかな気持ち

ももちろん、すべてのお寺がそうならいいとは思いませんが、お寺というのには「居場所」をつくる力があるということをこういう時こそ強く感じます。東北の震災から9年。あのときも、お寺は避難所として、被災された方々を迎え入れました。多くの喪失が生まれるとき、身を寄せられるのが、ただの「場所」ではなくて、信仰や人々の祈りが重ねられてきたお寺という場所であるのは、大きな安心につながるのではないのでしょうか。

否はあるかもしれませんが、インターネットを使って、お彼岸の法要を中継するお寺もあるといえます。もしかすれば、コロナの影響のみならず、身体が自由がきかず外に出られず、お寺にお参りできない人にとって、法要の中継が心の安寧につながるかもしれません。オンラインで法要に参加するより、直接お寺に参拝できるほうが、場の空気、お経の響き、リアルな対面のコミュニケーションの安心感など、得られるものが多いのはもちろんです。しかし、今回の新たな動きというのは、今までになかった可能性を広げるきっかけになっているのではないのでしょうか。

最後に、感染症とお参りにまつわるグリーンについても、ふれておきたいと思います。現在、数としてはまだ少ないかもしれませんが、亡くなる方も確実に増えています。今回、新型コロナウイルスにより家族を亡くされた方は、保健所の通達による取り決めがあり、病院からご遺体が納体袋に入れられ、指定された火葬場に直行という形でのお参りになります。しっかりと最後のお別れができないかもしれません。そこで生まれてくるグリーンにも心を向けて、向き合ってくれるお坊さん、お寺さんがあることを願うばかりです。どうか、一刻も早く、この状況が落ち着きますように。

春の彼岸会 永代経法要 蓮如忌法要 若声会公開学習会 大谷婦人会 追弔会・総会

お仏壇 ほりお 飛華 奥田石材

奥田建設株式会社 山都印刷株式会社 久寿玉 奥田石材